

幸福町緑道プロジェクト基本計画

令和8年3月

門真市

目次

0. はじめに	1
1. とりまく状況	3
2. 現況および課題とポテンシャルの整理	
(1) 現況整理	
① 成り立ち	4
② 計画地の現況	5
③ 計画地の利用状況	7
(2) 課題および機会とポテンシャル	
① 課題	8
② 機会とポテンシャル	8
3. 社会実験	
① 実験の目的	9
② 実施内容	9
③ 実施状況	9
④ 効果検証	10
4. 整備コンセプト	11
5. 整備方針と実現に向けた方策	11
6. 整備計画	
(1) 整備の考え方	13
① 舗装・インフラ計画	13
② 施設および植栽計画	15
③ 住民の公園づくりへの参画	17
(2) 計画図面	19
7. 管理・運営スキーム	21
8. 整備スケジュール	22

00 はじめに

本市では令和5年5月に「古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想」を策定。全体コンセプトを「PLAY FURUKAWABASHI」とし、多様な場所・アクティビティ・シーンのあるPLAYFUL（遊び心のある）なまちとして、「笑いのたえないまち門真」の象徴となることを目指し、取組を進めている。

本計画は同構想に位置づけた、「幸福町緑道プロジェクト」の基本計画である。検討に先立ち、令和5年11月に幸福町線架下児童遊園等を検証エリアとする社会実験、「PLAY FURUKAWABASHI Vol. 1」を実施。本計画は、同実験の効果検証結果を踏まえて作成したものである。

1 全体のコンセプト

多様な場所・アクティビティ・シーンのあるPLAYFUL（遊び心のある）なまちとして、
「笑いのたえないまち門真」の象徴となることをめざします。



遊ぶ	演奏する	活躍する	ゲームする	参加する
「遊ぶ」「育て」だけではなく「遊び」を通じて子どもや大人も成長できる場所をつくる	ルミエールホールだけでなく、音楽や演劇などがまちなかにあふれる場所をつくる	まちづくりを担うプレイヤー（人・団体・企業等）が活動・活躍できる場所をつくる	老若男女問わずに、汗をかく、知恵を絞ったり、運動やゲームのできる場所をつくる	様々な立場の人・事業者・団体などが参加し、ともに支え合うことのできる場所をつくる

14

資料：古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想（全体コンセプト）



資料：PLAY FURUKAWABASHI Vol. 1（フライヤー）



資料：PLAY FURUKAWABASHI Vol. 1（実験の様子）

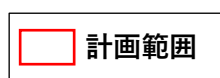
<計画範囲>

京阪古川橋駅から北西に 100m、整備が進む門真市庁舎エリアと駅を繋ぐ動線上に位置する。通行量の多い大通りから一步入った場所で、周囲は閑静な住宅が立ち並んでおり、南側には幸福西町会自治会館が隣接している。北東では「古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル基本計画」の対象プロジェクトである古川橋本通商店街があり、「旧第一中学校跡地整備活用事業」として交流広場、門真市立文化創造図書館 KADOMADO、タワーマンションの整備が進められており、周辺地域では新たな住民の転入や来街者の増加が見込まれている。なお、本敷地は関西電力の線架下空間となっており、門真市が所有者の関西電力送配電株式会社と公園用地として土地使用貸借契約を締結し整備したものである。

名称 : 幸福町線架下児童遊園

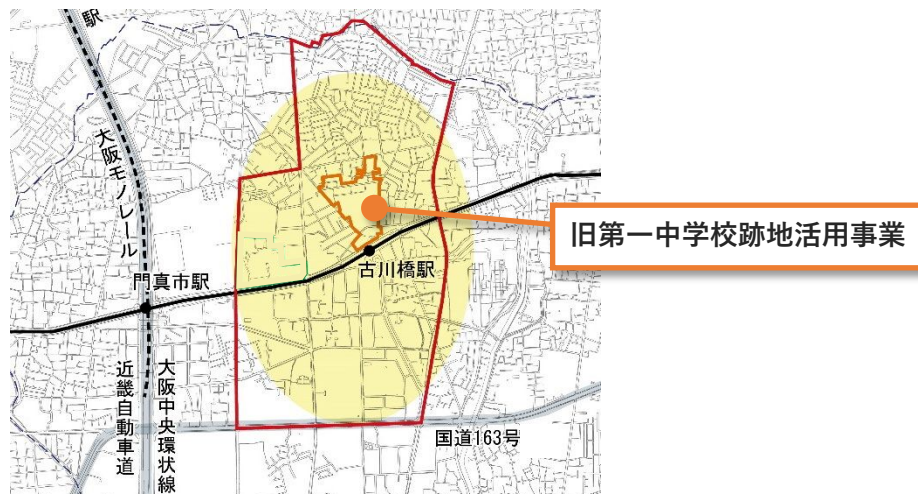
所在地 : 門真市 幸福町 580-6、幸福町 1003-2

面積 : 779 m²



01 とりまく状況

幸福町線架下児童遊園周辺では、エリア再生に係るいくつかの事業やプロジェクトが進行している。なかでも、「旧第一中学校跡地活用事業」では、交流広場、門真市立文化創造図書館 KADOMADO、タワーマンションの整備が進められており、周辺地域では新たな住民の転入や来街者の増加が見込まれている。



旧第一中学校跡地活用事業

◀ 将来構想図 ▶



門真市立文化創造図書館 KADOMADO のイメージ



資料：広報かどま 令和6年9月号

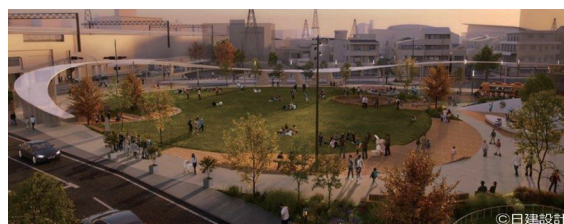
※この将来構想図は、区域外地権者用地等も含んでおり、地権者の合意状況や関係機関等との協議により変更が生じる可能性がある。

タワーマンション等のイメージ



資料：古川橋駅周辺地区未来ビジョン

交流広場のイメージ



資料：広報かどま 令和6年9月号

0 2 現況および課題とポテンシャルの整理

1 | 現況整理

① 成り立ち

戦後は農地だったが、1960～70年代に周辺の宅地化にあわせて公園として整備された。

1948年 農地となっており、周辺の建物もまばら



1961年 周辺に住宅が建ち並び、現在の敷地区画が形成される



1975年 周辺の宅地化がさらに進み、遊具等の公園施設が整備される



2021年 緑道部の緑が大きく育っている



資料：空中写真（国土地理院）

② 計画地の現況

名称：幸福町線架下児童遊園
所在地：門真市 幸福町580-6、幸福町1003-2
面積：779㎡

沿道敷地の一部は、自動車の出入りに通路を使っている

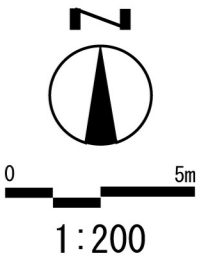
緑道部に面する個人宅では、植物が美しく管理されている



春には地域の桜の景勝地となっており、お花見会が催されている



計画範囲



※関西電力送配電(株)より公園用地等として借地しており、住民(自治会)と協力して通行者に開かれた空間形成を目指していく



四季を感じさせる多様な植物が植えられている



公園に自治会館が隣接



沿道敷地は公園に対し開いた土地利用となっている



5種類の遊具、ベンチ・藤棚等の設備がある

街灯は市管理のもの、自治会管理のものがある

幸福西町会
自治会館

③ 計画地の利用状況

門真市パークイノベーション計画にまとめられた公園の利用実態調査（R3）によると、幸福町線架下児童遊園の利用者数は1日あたり20人で、主な利用者層は”子連れの親子”と”高齢者”、主な利用内容は”休憩”と”遊具（幼児および児童）”、主な利用時間帯は平日・休日ともに”8時～18時（主に午後利用が多い）”となっている。

同計画では幸福町線架下児童遊園の方針として「機能の特化（にぎわい型）※」に位置付けている。

※機能の特化（にぎわい型）の具体化方策として、「児童向け遊具の設置」「広場（ボール遊びなど）」「イベント、地域行事」が示されている



資料：門真市 パークイノベーション計画 利用実態調査結果【門真はすはな中学校区（その2）】

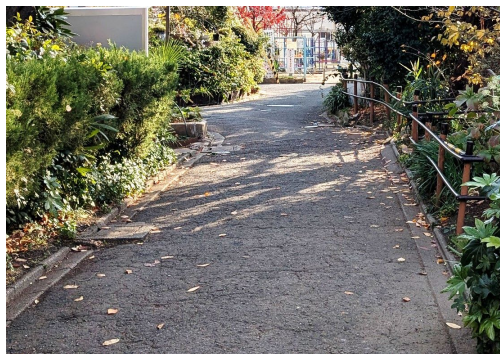
2 | 課題および機会とポテンシャル

① 課題

- ・ 緑道部の中高木が繁茂しており、薄暗く、見通しが悪く、電線に木の枝がかかる等の懸念もある
- ・ 緑道部の通路の舗装が劣化しており、凸凹があり、歩きにくい
- ・ 公園の利用者は1日あたり20人とどまっている
- ・ 管理のための散水設備等がない



緑が繁茂し、薄暗い



通路の舗装が劣化している

② 機会とポテンシャル

- ・ 近隣の旧第一中学校跡地活用事業（門真市立文化創造図書館 KADOMADO やタワーマンションの建設等）により、周辺住民や来街者の増加が見込まれる
- ・ 自治会館に隣接しており、連動した活用が期待される
- ・ 緑道部の沿道敷地は緑道に対して開いた土地利用で、緑道の魅力化にあわせた活用が期待される
- ・ 緑道部に面する個人宅では、植物が美しく管理されている
- ・ 緑道部は四季を感じさせる緑豊かな空間で、春には地域の桜の景勝地となっており、お花見会が催されている
- ・ 社会実験を契機に、地域住民により寄せ植えを行う活動が継続されている
- ・ 公園部には5種類の遊具、ベンチ・藤棚等の充実した設備がある
- ・ 自動車の通過交通はほとんど無いため、歩行者が安心して過ごせる



公園に隣接する自治会館



地域住民に愛される四季を感じさせる植物

03 社会実験

① 実験の目的

「グリーンセミナー」は将来の担い手となる地元プレイヤーの発掘・育成、緑を通じたコミュニティ形成、「PLAY FURUKAWABASHI Vol. 1」は幸福町線架下児童遊園の活用可能性や幸福西町会自治会館との連動した活用方法について検証することを目的に実施した。

② 実施内容

<グリーンセミナー>



第1回 バラの苗植え体験



第3回 リース作りワークショップ



第3回 バラの品評会

<PLAY FURUKAWABASHI Vol. 1>



絵本の読み聞かせ



絵本の広場



コーンホールゲーム体験



キッチンカーの出店

③ 実施状況

グリーンセミナー	
9月9日(土)	第1回 緑の勉強会(バラの育て方)、バラの苗植え体験
10月14日(土)	第2回 緑の勉強会(宿根草について)
11月11日(土)・12日(日)	第3回 リース作りワークショップ ※自治会館内で実施 バラの品評会(苗植え体験で育てたもの) ※公園で実施
PLAY FURUKAWABASHI Vol. 1	
11月11日(土)・11月12日(日) 各日11時~16時	・絵本の読み聞かせ(12日のみ) ・絵本の広場 ・コーンホールゲーム体験 ・キッチンカーの出店(11日のみ)

④ 効果検証

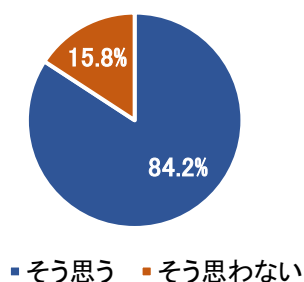
<グリーンセミナー>

●緑を通じたコミュニティが立ち上がり、花壇づくり活動に関わりたと思っている

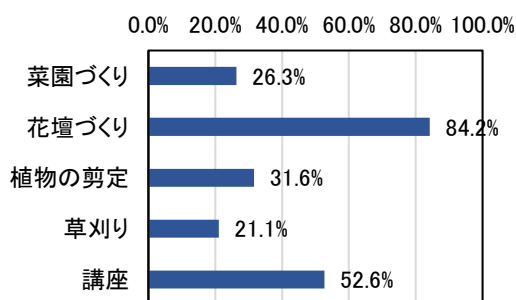
参加者アンケートの結果から、植物をテーマとする活動が、地域のコミュニケーション促進に繋がったことがわかった（社会実験を契機に、地域住民による寄せ植えを行う活動が継続されている）。今後について、**8割超の参加者から「花壇づくり」に関わってみたい**との意見があった。

また、今後、P21に記載のグリーンコミュニティ等の住民団体の活動で、公園の植栽の一部を住民で管理するなら、**手洗いや散水設備がないこと、担い手となる住民の高齢化が課題**であることがわかった。そのため、整備に向けては、**地域住民の意向を確認しながら進めることが重要**と考えられる。

「植物について誰かと話す時間が増えた」



「今後どのような活動に関わってみたいか」

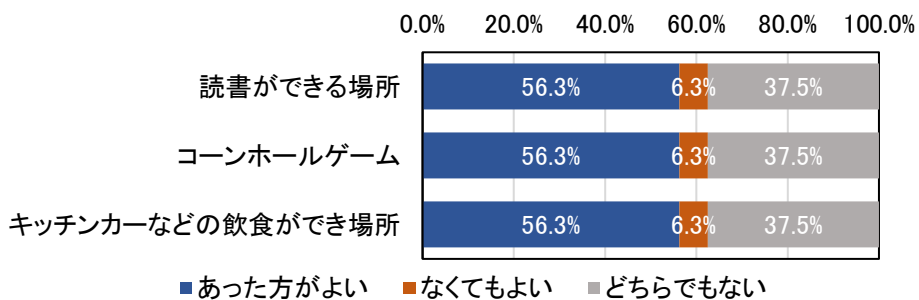


<PLAY FURUKAWABASHI Vol. 1>

●公園は遊具遊びからイベント・憩いまで幅広い使い方ができることが求められている

参加者アンケートの結果から、公園内で実施したコンテンツはどれも日常化を望む声があったが、それに限らず、フリーマーケットやモノづくりワークショップなど、多種多様な使い方を希望する意見があり、**限られた使い方ではなく、幅広い使い方が求められている**ことがわかった。

「日常的にあった方がよいもの」



幼児・小学生を対象とした子ども向け参加者アンケートでは、普段から公園に来ると遊具で遊んでいると全員が回答。既存の5種類の遊具は、子どもたちに親しまれており、**この公園の魅力の一つ**として設置の継続が求められる。

04 整備コンセプト

まちに彩りが広がるガーデン

～育てる楽しみをシェアし、まちへと広げる場に～

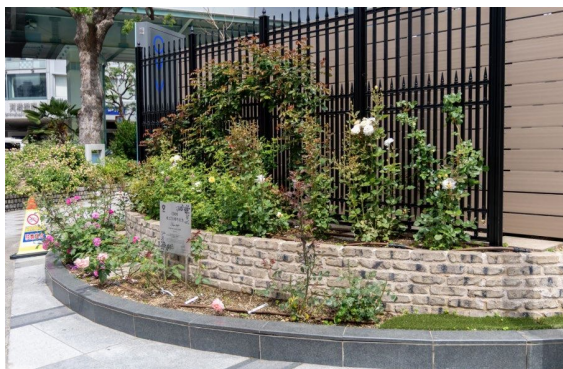
PLAYFUL（遊び心のある）なまちを目指し、地域で愛され・育てられてきた緑道・公園の文化を継承し、日常的で気軽な公園の維持管理を通じて、ガーデニングを学んだり、仲間が増え、公園から周辺のまちへと彩りを広げていくきっかけとなるガーデンを目指す。

05 整備方針と実現に向けた方策

整備方針1 植物を育てることに気軽に参加できる空間づくり

方策① 住民参加型のガーデンエリアの導入

公園・緑道の細長い形状や地域動線となっている特性を生かし、街並みのようなガーデンとして整備し、P21に記載のグリーンコミュニティ等の住民団体が気軽に花を植え、育てられる仕組みづくりに取り組む。



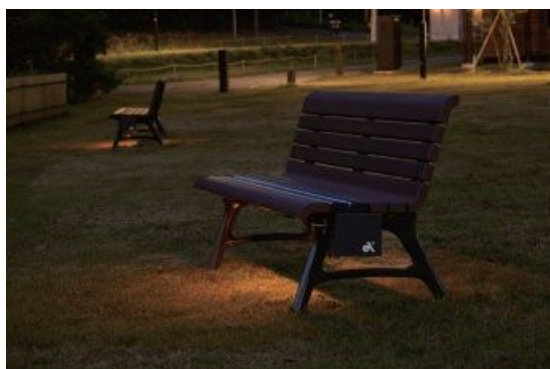
イメージ：OMM ビル



イメージ：パラアーチ

方策② 維持管理の負担を減らす環境の整備

散水の手間をなくす自動灌水設備・水道、休憩できる日よけやベンチ、景観に馴染んだガーデニング道具等の物置を設置する等、管理の負担を減らし、参加しやすい環境を整備する。



イメージ：照明付きベンチ



イメージ：水道

整備方針2 居心地よく魅力的な空間形成

方策① 既存の植栽を活用したさらなる美観形成

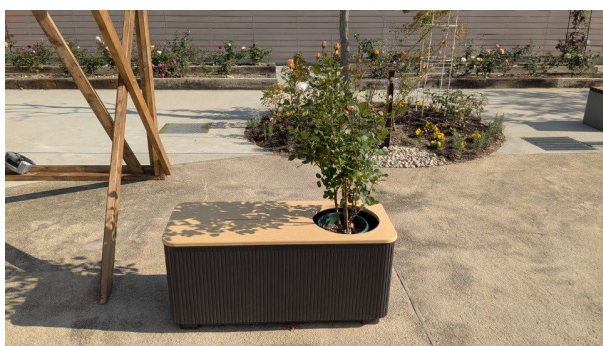
地域のお花見スポットとして残し、桜に加えて四季を楽しむ花木などを設置。住宅密集地の光害にも配慮したライトアップをおこない、美しい景観づくりに取り組む。



イメージ：四季を楽しむ花木

方策② 地域のクールスポットとなる、居心地よく快適性の高い滞留空間の充実

地域の通り抜け動線であり、密集住宅地の中の貴重な緑空間であることを活かし、ヒートアイランド現象の緩和や熱中症対策などにも対応した、さらに居心地よく快適性の高い滞留空間をつくる。



イメージ：京阪園芸ガーデナーズパーク

方策③ イベントの開催などに対応した設備の導入

屋外コンセント、水栓、キッチンカー等が入れる動線やスペース、タープテント等が張れる設備を導入するなど、小規模なイベントが気軽に開催できる空間をつくる。

整備方針3 周辺と一体となった歩きたくなるウォークブルエリアの形成

方策① 楽しい色使いなどによる一体感を感じられる空間づくり

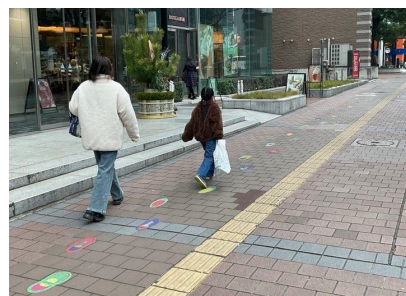
遊具やベンチ等の塗装やグラフィックデザインの展開を通じ、遊び心のある楽しい公園の表情をつくる。ウォークブルエリア全体への人々の回遊を促すため、周辺まちづくりなどと連動させ、共通のテーマ色の設定等に取り組む。



エリア共通のグラフィックデザイン



既存ベンチのキーカラー塗装



歩きたくなるグラフィックアート

06 整備計画

1 整備の考え方

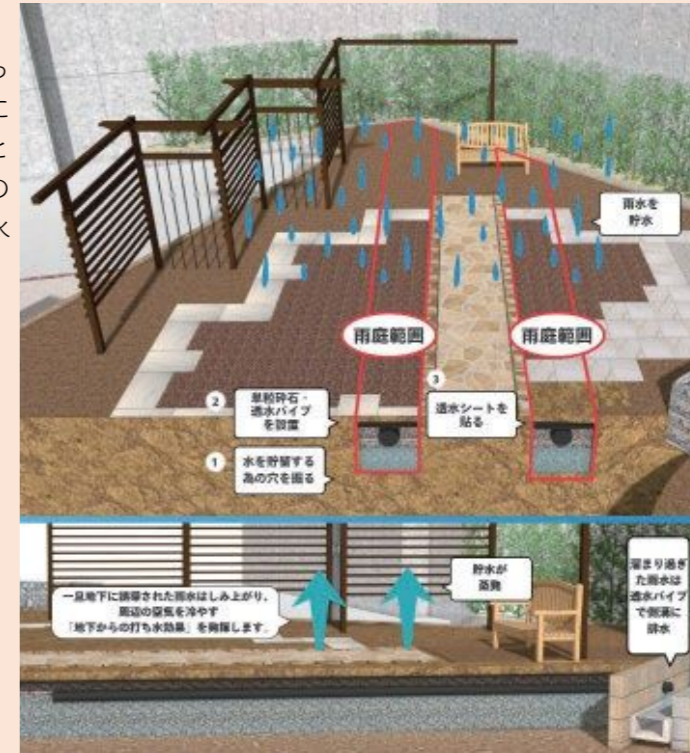
① 舗装・インフラ計画

古川橋駅から庁舎エリアへとつながる歩行者動線を、歩道・車道の舗装の切り分け、イメージハンプの導入により**安全性を高めながら**、公園から緑道部を一体的な舗装とすることで、**緑のプロムナード（散歩道）としての魅力を高める**。また、透水性舗装・レインガーデン・浸透トレンチ等のグリーンインフラを導入し、自然環境が持つ多様な機能を積極的に活用し、**密集市街地における防災・減災、環境保全、地域活性化などの持続可能な社会基盤を整備し、居心地や快適性の高い滞留空間や活動空間をつくる**



レインガーデン（雨庭）

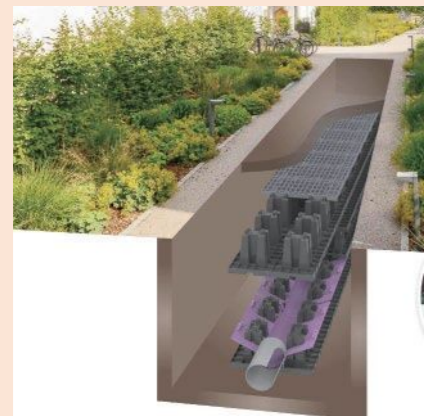
地面に降った雨水を一時的に貯留し、ゆっくりと地下に浸透させる緑化空間。大雨による水害の抑制、地下水や雨水の貯留、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全といった効果が期待できる。また、水やりなどの管理負担を軽減させる



カラーアスファルト舗装をイメージハンプとして機能させる

浸透トレンチ等

雨水を一時的に貯留し、植物の灌水や急激な排水を抑える



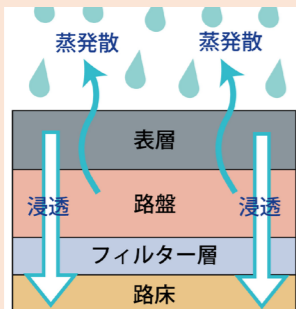
イメージ：CW トレンチ SS

パスの新設（透水性カラーアスファルト舗装）歩行者の車道からの退避空間としても活用

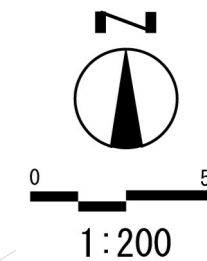
舗装の切り替えにより歩行者・自動車動線を分離。安全な地域動線を確保

透水性カラーアスファルト舗装

雨水を空隙の多い多孔質な表層材から路盤、路床に浸透、保水させる透水性の舗装で整備し、浸透トレンチとの組合せで保水能力を高め、樹木の給水や気温を下げる機能を持たせる



カラーアスファルト舗装をイメージハンプとして機能させる



自然土（既存）

② 施設および植栽計画

施設については、ベンチ付きの滞留空間や夜間照明付きのファニチャーの導入など、**滞在性・安全性を高める空間や設備を導入する**。また、水栓や日陰空間、キッチンカースペース等、**日常の管理活動や小規模イベントにも対応できる設備を整える**。

植栽はこの場所を象徴する魅力である桜をベースに、**景勝地としての景観づくり**を行いつつ、**専門家の知見も導入しながら、既存の緑地部ではさらなる魅力向上をはかる**

既存緑地の整備

現在の季節を感じる植栽をベースに、日常管理を行う住民などへの専門家によるアドバイス等を通じ整理する

LED 照明付きフェンス

薄暗い緑道部の足元をフェンスに仕込まれたLEDの柔らかい光で照らす



滞留空間（照明付きベンチの設置）

緑地内に滞留空間を確保し、住民が憩えるベンチ等の設備を設置する。また、ベンチは薄暗い緑道部の足元を照らす、照明付きのもの等を導入する



植栽の樹高は架線の状況を踏まえ、離隔距離を確保して整備する

既存の桜は枯れ枝撤去等、整枝する

既存の樹木の撤去・フェンスを背の低いバリカに切り替えるなど、公園と緑道部のつながりを感じられる空間を確保する

既存の藤棚を活用し、日陰空間を確保

屋外コンセント、水栓、キッチンカー等の駐車スペース、タープテント等が張れる設備を導入するなど、日常の管理活動や小規模なイベントが気軽に開催できる設備を整える



【新植する桜の例】



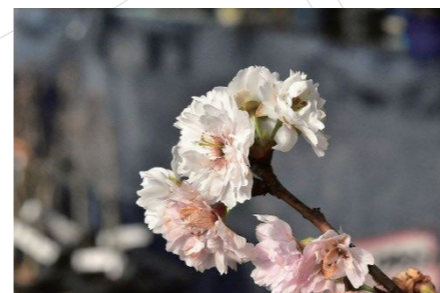
オオシマザクラ（3〜4月頃に葉と同時に開花）



ヤマザクラ（3〜4月に開花）



ヒガンザクラ（3月下旬〜4月上旬開花）



ジュウガツザクラ（11月頃に開花）



カワザクラ（1月頃に開花し1ヶ月ほど開花）

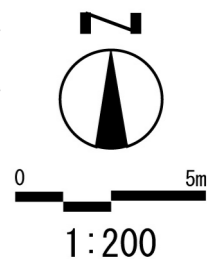


カンヒザクラ（2月頃に釣り鐘場の花が咲く）

桜の新植

既存の桜に加え、開花時期が異なる等の特徴が異なる樹種を新植し、夜間のライトアップ等もおこない、桜の景勝地としてさらなる魅力向上をはかる

既存遊具の整理（2つあるジャングルジムの一つを撤去）



③ 住民の公園づくりへの参画

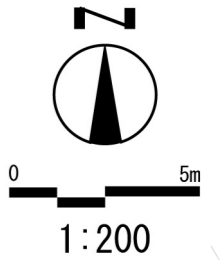
これまで、地域住民が公園美化活動に取り組んできた流れや社会実験の効果検証結果を踏まえ、**参加型の公園づくり**を行う。**住民参加型花壇**や**バラのアーチづくり**、**遊具等のペイントワークショップ**、**まちにガーデナーを育てる仕組みづくり**等を実施し、住民が育てる公園づくりを進め、**ガーデニングを学べ・仲間づくり**ができる環境をつくり、まちに彩を広げる起点となるような取組みとする

まちにガーデナーを育てる仕組みづくり

管理を受託した民間事業者等によるワークショップやガーデニング講座等のプログラムや小さなイベントの開催を通じ、**新たな担い手**を呼び込む



社会実験でのワークショップや品評会の様子



住民参加型花壇

地域住民が花壇づくりを通じ、地域のコミュニケーションの場としながら、**ガーデニングを学べ、仲間づくり**ができる環境をつくる



住民参加型バラアーチづくり

地域住民がバラのガーデニングについて学びながら、**バラアーチ**をつくる。鋼製アーチにモッコウバラやアンジェラを絡ませ公園や緑道の通路部分等に配置する

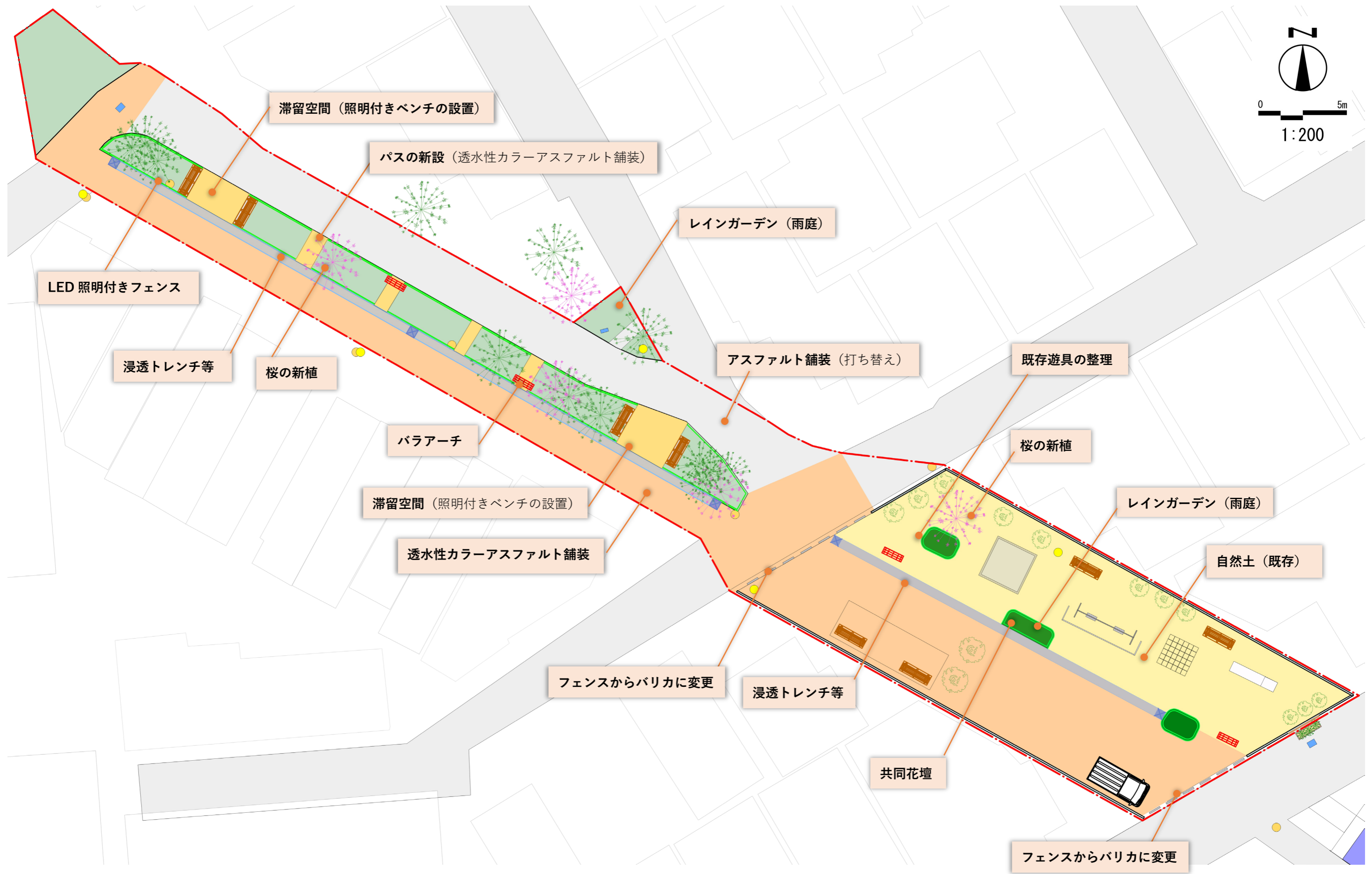


既設遊具等のペイントワークショップ

公園遊具の塗装について、グラフィックデザイナーを講師に利用者である子どもが色決めから塗装までを体験できるワークショップ等を実施。公園管理を体験することで公園への愛着を育む



| 2 | 計画図面



07 管理・運営スキーム

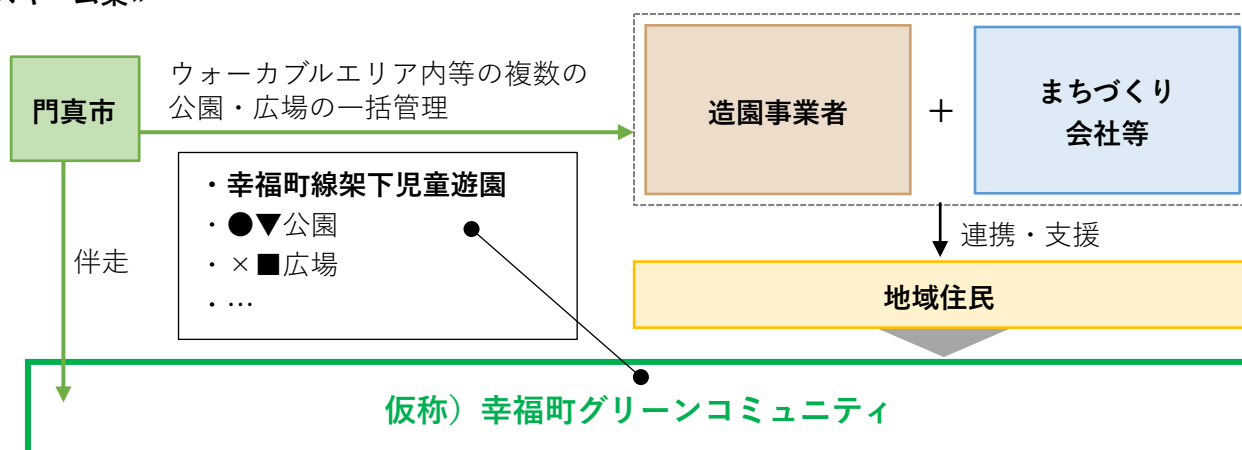
本公園の維持管理を通じて、みどりに関心のある地域住民と、植栽管理やみどりを介したコミュニティの形成支援（ワークショップの開催、緑の講座の実施等）等の実績・ノウハウを有する造園事業者が連携し、緑を楽しみ、まちに広げる活動を実施する。

ただし、本公園はそれ単体では狭く、小さい管理業務量でスケールメリットも生じず、民間運営への切替えは現実的ではないため、本公園だけではなく同時期に再整備されるウォークブルエリア内等の複数の公園や広場等を含めた、エリア一帯の公共空間の包括的な管理運営とする。その条件として植栽等の維持管理に加え、エリア一帯の緑を介したまちの魅力化・ブランディングに寄与するよう、グリーンコミュニティの形成支援を業務内容に加え、事業者に委託するものとする。

なお、管理者には中間支援組織としてまちづくり会社等が共同事業体として参画することで、エリア全体のまちづくりと連携を強化することも考えられる。

改修整備前の段階から既存の植栽等（花壇等は仮設的な設置も想定）について造園事業者の指導・支援を受けながら維持管理を進める準備期間を設けることで、グリーンコミュニティを形成し、将来的な住民・事業者の連携による公園管理の体制を整備することが有効である。

《スキーム案》



	緑を楽しみ・まちに広げる活動	管理活動
造園事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑のワークショップの開催 ・ 緑の相談会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高木等の植栽管理
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑のワークショップや相談会への参加 ・ 花壇でのバラづくり ・ バラづくりの普及・啓発 ・ お花見会やプチマルシェ等のイベント実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中・低木を含む植栽全般の管理

08 整備スケジュール

令和5年5月に「古川橋駅周辺地区まちなかウォークブル推進基本構想」を策定。同構想に基づき、令和5年11月に社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.1」を実施した。その結果を受け、本編をとりまとめた。今後は、エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事をを目指す。

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
	↑		↑	
「古川橋駅周辺地区まちなかウォークブル推進基本構想」の策定		「幸福町緑道 P」基本計画」の策定※		実施設計・工事（予定）
社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.1」の実施			エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事をを目指す	

※古川橋駅周辺地区まちなかウォークブル推進基本構想に示された4つのプロジェクトと合わせて策定